

Fumiko

作 重信臣聡

Synopsis

現代、ステージと客席の区別のない空間で劇が始まる（M1 夢の劇場）。
1937年アメリカ西海岸の日本人街。日本人街に暮らす正一が祭りの準備をしている。

日本から鐵三が港に到着する。いとこである正一が迎えに行き、街を案内し、妹のFumikoが出演するアマチュアナイトの開催される劇場に連れていく。
Fumikoがステージで歌う（M2 あなたのせいよ）。
鐵三はFumikoに見とれる。

3人はクリーニング店兼自宅へ戻る。鐵三がFumikoのステージのことを話題にしてしまう。対立する父と正一。
もやもやとした気持ちを抱えながらFumikoと鐵三はレモネードを作る（M3 レモネード作ろう）。

夏祭りが始まる。盆踊りの後、Fumikoと鐵三は二人で森を歩く。
鐵三は自分の境遇と夢を語る。Fumikoはその言葉に勇気をもらい、自分の夢と向き合おうと実家を離れる決心をする。

劇場で大掛かりなリハーサルが行われている。Fumikoもそれに参加している（M4 メトロポリタン）。
なかなかうまくいかない状況に耐えるFumiko。カフェで鐵三に宛てた手紙を書き、再び鏡の前に立ちトレーニングに集中する（M5 In the Mirror）。

鐵三と正一が届いた手紙を読む。正一は自分の店を持つ計画を打ち明ける。

Fumikoはオーディションを受け続ける日々。そこでDavidに出会う。

正一は父に計画を打ち明ける。対立する二人。正一は家を飛び出す。父は母に内心を打ち明ける。

Davidの作品に参加することになったFumikoはRachelと再会する。自分だけが選ばれたわけではないことを知りショックを受ける。

作品のリハーサルの最中、Fumikoを訪ねて鐵三が楽屋に現れる。
新しい環境で奮闘しているように見えるFumiko。鐵三はそんなFumikoとの間に距離を感じる（M6 クインテット）。

1941年12月7日、日米開戦。ルーズベルトの議会演説がラジオから流れる。日本人街の人々は不安を感じる。

Davidと劇場支配人がFumikoの出演について話す。支配人は降板を主張しDavidは受け入れざるをえない。
支配人はFumikoに降板を伝える。

Fumikoは去ることが決まった舞台上で最後に一人、踊る。そこにDavidが声をかける。DavidはFumikoにブロードウェイへ一緒に行こうと打診するがFumikoは申し出を断る。

日本人街で日系移民たちの強制収容が始まる。

劇場のポスターからFumikoの名前が消されていく。それを眺めることしかできないFumikoにRachelが声をかける。

FumikoはDavidの待つ広場で遠くから彼を見つめる（M7 I wonder...）。

収容所で正一はフェンスを乗り越えようとする。

墓地でFumikoと鐵三は再会する。

Fumikoの記憶の風景が立ち現れ、これまでの楽曲のメドレーとともにシーンがフラッシュバックしていく（M8 旅の終わりに）。

Fumikoはシューズを脱ぎ、劇は幕を閉じる。

CAST OF CHARACTERS

Fumiko

鐵三

正一

父

母

David

Rachel

学生たち

広場を行き交う人々

日本人街の人々（男1・2、女1・2・3）

八百屋

ダンサーたち

演出家

給仕たち

劇作家

俳優

女優たち

写真家

ポスター貼りの男

男

女性ダンサーの声

支配人

劇場スタッフたち

州兵たち

作業員たち

参列者たち

Scene 1

舞台と客席に明確な区分けはない。観客は思い思いの場所で劇を体験する。
中央に可動式の高見が複数用意されている。
俳優たちは一部の役を除き複数の役を兼ねる。
シーンは照明、音響、装置などにより一瞬で変化する。
現代。周囲にはこれから使用される装置や小道具、衣裳が置かれている。
DJ Boothのように設置されたEngineer Boothには
華やかに着飾ったLighting Engineer, Sound Engineer, VJがいる。
現代の魔法使いたちは光と闇に彩られたフォトジェニックな空間を創り出し、重低音のビートに揺さぶられた人々は、日常から非日常へ誘われる。
一人の男が座ってただじっと何かを待っている。
序曲が始まる。照明変化、日常空間と劇空間が交差する。
次第に劇空間が優勢になり、現実から劇の世界が立ち上がる。

M 1 「夢の劇場」

暗闇に 明かりを 灯して
広がる 幻は
ひとときの 楽しみ
それは show must go on

笑顔 涙 拍手 歓声
喜び 歌声 悲しみ 雄叫び
sing dance kill

全てが叶う 魔法をかけて
思い描けば ふくらむ 空想と 物語
それは show must go on

歌い 踊り 理想 希望
熱狂 興奮 抱腹 絶倒
sing a song

世界が歌いだす まだ見ぬ未来へ
世界が踊りだす 太古の昔へ
暗闇の淵に目を凝らせば
星の輝き そう

show must go on
show must go on
show must go on

舞台の対角線上にFumikoと真新しいシューズ、光の中に現れる。
舞台上にはFumikoとDavidが残っている。
Fumiko、シューズを履き、姿勢を正し静止する。
Davidは不意に立ち上がり、Fumikoを見つめる。

David フミコ。

Scene2 1937年、アメリカ西海岸の日本人街

海に見える広場に近い倉庫。
櫓を組む木槌の音が聞こえる。
正一、倉庫から提灯を両手いっぱいを持って登場。
正一は右足を引きずりながらゆっくりと観客をかき分けて歩く。
提灯を倉庫の外にまとめて置き、再び倉庫に戻る。
正一、材木を運び出してきて、提灯の隣に置く。
正一、額の汗を首にかけた手拭いで拭う。

正一 おうい。

男1、2登場。

男1 はいよ。
正一 これ頼む。
男1 はいはい、これね。
男2 あとどのくらいだ？
正一 長物はこれで最後だ。あとは提灯とか、幕とか細々したものだけ。向こうの様子は？
男2 櫓を組んでるよ。
正一 じゃあ持って行ったらそのまま向こうに合流してくれ。
男2 人使いが荒いねえ。
正一 労働者は労働するものなんだよ。
男1 なに当たり前のこと言ってんだよ。
正一 気に障ったか？悪いな、ブルジョワジーの風を吹かせちまって。
男2 また始まったな。好きだな。オメーも。そういうよくわかんねえもんがよ。
正一 いいだろう？
男2 大変結構なことでございます。
正一 諸君らにもいつか教えて差し上げよう。
男1 誠に勿体無いことでございます。ほら、いくぞ。
男2 はいよ。

女1、女2、女3、ケタケタ、クスクス笑いながら登場。

男1、2、材木を持ち、観客をかき混ぜながら退場。

女たち、その様子を横目にケタケタ、クスクス笑い合う。

正一 次、これな。
女1 はあい。

女たち、提灯を手に取りながら。

正一 楽しそうだな。何かあったの？
女2 別に、ねえ。
女3 うん。

女たち、顔を見合わせてクスクス笑う。

正一、つられて笑顔になる。

正一 祭りだからって浮かれるにしてもちょっと早いだろ。
女1 そんなことないよね。
女2 うん。
女3 ねえ。
正一 そうか、まあなんだかわかんねえけど楽しそうで何よりだ。

提灯が一つ余る。女1、拾おうとする。正一それを制して。

正一 ああ、いいよ。俺が運ぶから。
女1 はあい。行こ。
女2 うん。

女たち、提灯を持ち、クスクス笑いながら退場。

正一、見送った後、伸びをして、後屈する、鈍い痛みに一瞬顔が曇る。

右足をさすり、ため息。

汽船の汽笛の音。

正一 もうそんな時間か。

正一、提灯を手を退場。

Scene3 日本人街

夕刻。
往来は商売人や買い物客など様々な人々で賑わっている。
Fumikoは人目を気にしつつ劇場へ急ぐ。
正一はやや急ぎ足で船着場へ向かう。

Scene4 船着場

夕刻。

正一 失礼、君が・・・？
鐵三 そうです。鐵三です。正一さんですか？
正一 そうだ、遅くなってすまなかった。
鐵三 いえ。着いてから検査や何やらでだいぶ時間がかかりましたから。やっと出られたところです。
正一 そうか。こっちもちょうど祭りの準備があつてね。
鐵三 お祭りですか。
正一 ああ。年に一度の楽しみだ。町内会で準備をしてる。日本式のかなり本格的な祭りだよ。
鐵三 それはすごい。
正一 君、盆踊りは得意？是非参加してくれ。
鐵三 ええ。数あわせでよければ。
正一 大丈夫？
鐵三 船旅のせいかまだ地面が揺れている感覚です。
正一 そうらしいね。長い船旅になると。覚えてないんだ。私は幼かったから。
鐵三 その方がいいです。
正一 そうかもな。
鐵三 ええ。
正一 陸を歩けばそのうち落ち着くよ。家に寄る前に少し街を見ていこう。
鐵三 いいですね。賛成です。

正一、鐵三、観客をかき分けながら歩いていく。

正一 これが目抜き通りだ。この辺り一帯は移民してきた日本人が多い。日本の品物も手に入る、少し値は張るが。こちらが食料品。あちらが衣料品。日本語の新聞も発行されている。一世は英語がからきしのものも多いが、さして困ることはない。食堂に、医者。奥には寺もあって住職もいる。柔術の道場もある。興味があれば行ってみるといい。

鐵三 この辺りは日本人ばかりですね。
正一 まあ、そうだね。その方が暮らしやすいからね、実際。イタリア系はイタリア系でまとまるし、チャイナタウンなんか完全に支那らしい。本当の支那に行ったことがないからどこまで本当かわからんが。
鐵三 そうなんですね。
正一 全くの別世界へ行けるようなものさ。歓迎されるかどうかはまた別の話だが。
鐵三 なるほど。
正一 ついでに面白いものを見せよう。
鐵三 面白いもの。なんです？
正一 アマチュアナイト。

照明変化。高見移動。

Scene5 日本人街近くの劇場

高見がシアターの電飾付き看板を乗せて移動。別の2台の高見が中央に集まりAmateur Nightの横断幕を持った二人を乗せたまま横に移動し、横断幕を広げ、そのまま縦に移動し横断幕が観客の頭上を通り過ぎる。

M2 「あなたのせいよ」

私は 夢見る 女の子で
いつかは 失くして しまうのかな？

全ては 儂い 幻なの？
それなら なくなる その時まで

楽しいこと全部
詰め込んで生きたい
全部 全部 溢れ出すまで

誰もが 夢見る 女の子で
いつかは 失くして しまうのかな？

全てが 幼い わがままでも
まるごと 包んで 抱きしめてよ

つらいことも全部
受け止めて生きたい

私が 選んだ あなただから
笑顔も 涙も 見逃さない

初めは 些細な 偶然でも
あの時 あなたが 私を 変えてしまった

ラーラーラララー ララララ ララララー
あなたのせいね

昨日は 夢見る 女の子で
あの時 あなたが 私を 変えてしまった
あなたのせいよ あなたのせいよ

鐵三、じっとFumikoを見つめる。
Fumiko、鐵三と正一に近づく。

正一 今日も絶好調だな？

Fumiko いつも通りよ。

鐵三 . . .

Fumiko あなたが例のお客さん？

正一 ああそうだ。

Fumiko そうなんだ。

鐵三 え？

正一 二人ともちょっとここで待っててくれ。

Fumiko ちょっとお兄ちゃん。

正一 すぐ戻る。

正一、去る。Fumiko、鐵三並んで立っている。

沈黙。

鐵三、様子を伺う。目が合いそうになって視線をそらす。もう一度様子を伺う。

鐵三 . . .あの。

Fumiko はい。

鐵三 素晴らしかったです。歌も踊りも。

Fumiko ありがとうございます。

鐵三 いえ、はい。
Fumiko . . . 。
鐵三 . . . いつも踊ってるんですか？
Fumiko まあ、はい。
鐵三 女優になるんですか？
Fumiko いや、そういうわけじゃ。
鐵三 どうして？
Fumiko この街を出るつもりもないから。
鐵三 もったいないですよ。すごく素敵でした。

正一、拡声器を手に戻る。
戻ってきた正一と目があう。鐵三、目をそらす。

Fumiko . . . 。
鐵三 . . . すみません。
正一 お前ら目を離れた隙に . . . 。
Fumiko ちょっとやめてよ、お兄ちゃん。
正一 わかった。お前ら二人で先に帰ってろ。俺はこれ持っていかないといけないから。
鐵三 はい。
正一 Fumiko、頼むぞ。危ない路地は危ないから。
Fumiko 知らない。

Fumiko、去る。
鐵三、ついていく。

Fumiko 少し離れてくださいますか？

鐵三、少し離れてついていく。

Scene6 自宅兼クリーニング店

食卓を囲むFumiko、そして父、母、正一、鐵三。

正一 いやあ、しかし傑作だったな。こいつったらポカーンと眺めてるんだぜ。
鐵三 つい珍しかったので。
母 あらまあ。
正一 来て早々いいもん見れただろ。気をつけろよ、中には拳銃を持ってるやつもいるからな。
鐵三 拳銃！
正一 そうだ。もし何かあった時は手を上げろ。

鐵三、挙手する。

正一 それじゃ学校だよ。両手をこうだ。
鐵三 勉強になります。
母 正一、あんたもほどほどにしときなさいよ。
正一 わかってるよ。
鐵三 はあ。
Fumiko よかったね。入国早々、金髪美人に出会えて。
鐵三 いや、そういう目で見ただけでは。

鐵三、醤油入れを倒す。

母 あら。
鐵三 あ、すみません。
母 大丈夫？
鐵三 大丈夫です。すみません。
父 気をつけなさい。醤油もこの国では貴重品だ。
鐵三 はい。気をつけます。
父 明日から早速働いてもらおう。そのシャツのシミ抜きからだな。甥とは言っても従業員には違いな
い。いつまでも観光気分じゃ困るんだ。
鐵三 はい。

Fumiko お父さん、お祭りの準備なんだけど。
父 ああ、八百屋に話は通してある。
Fumiko ありがとう。
母 大丈夫なの？かなりの量だよ。
Fumiko もちろん、きちんと算盤はじきました。
父 失敗しても穴埋めはしないからな。
Fumiko 大丈夫よ。
正一 本当か？
Fumiko 任せなさい。お金ならある。
父 張り切るのは構わないが、ほどほどにしておきなさい。
Fumiko はい。
正一 祭りで屋台を出すんだとさ。
鐵三 屋台？
Fumiko そう、レモネードを作って売って。
鐵三 レモネード？
Fumiko 飲んだことない？今度作ってあげる。
鐵三 ありがとう。
Fumiko うん。3セント。
正一 おい、金取るのかよ。
Fumiko 当たり前でしょ。商売なんだから。材料だってただじゃないのよ。
正一 がめついなあ。
Fumiko お兄ちゃんは人がよすぎなの。
正一 立派な商売人だ。
鐵三 意外です。僕はてっきり踊りの方で身を立てるのかと。
正一 ちょっと。
鐵三 なんです？
父 Fumiko、お前また言いつけを破ったのか？
Fumiko . . .
母 お父さん。
父 そうなんだな。
Fumiko はい。
父 いつも言っているだろう。
母 お父さん。何も今でなくても。お客さんの前で。
父 鐵三君は商売の勉強に来ているんだ。この際だからはっきりさせておいた方がいいだろう。いいか、私も、お前たちもこの国ではよそ者だ。だから目立つことは避けて。ひっそり暮らすんだ。
母 ふみちゃん。お父さんに謝ったら。
Fumiko . . . ごめんなさい。
父 気をつけなさい。
正一 おかしいよ、そんなこと。
父 何がおかしいんだ。またお前がそそのかしたのか？どうなんだ。
正一 ステージを一度だって見たこともないくせに。
父 何だと。
母 正一、よしなさい。
正一 踊るくらいなんだよ。一生隠れて暮らすつもりかよ。
父 そうだ。私たちは日本人だ。この国の人間じゃない。
母 お父さん。
父 忘れるな。お前も日本人だ。

正一、席を立つ。

母 正一。
正一 ごちそうさま。

正一、食器を洗い場に持って行く。

母 ごめんね、着いた早々こんな話で。
鐵三 いえ。こちらこそ、すみません。(Fumikoにも頭をさげる)
母 さあ、食べて。
鐵三 はい。
母 Fumikoもほら笑って。そんな顔してたらご飯もおいしくないよ。

正一、通り過ぎながら。

正一 敵を作らないためにな。

父、立ち上がる。
正一と父、二人はお互いを見る。
沈黙。

Scene7 台所

鐵三、テーブル、まな板と包丁、グラスとマドラーを準備する。
八百屋、バスケットいっぱいのレモンを運んでくる。
Fumiko、それを受け取る。
二人はレモンをカットし、絞り、レモネードを作りながら。

鐵三 さっきはごめん。
Fumiko うん。
鐵三 内緒だったの？
Fumiko うん。まあね。
鐵三 着いて早々しくじっちゃったなあ。
Fumiko 二人はいつもあんな感じだから。お父さんとお兄ちゃん。
鐵三 そうなの？どうして？
Fumiko わかんない。

Fumikoマドラーでグラスを叩く。

M3 「レモネード作ろう」

曇り空 雨模様
苦いレモンの屋下がり

何も知らない人たちは
頑張れって言うけど
どうしても 立ち上がれない
曇りのち雨 そんな日もある

何かがうまくいかない
どうすればいいのか わからない
抱えたレモンに 押しつぶされそう

誰かにぶつけるのはやめて
そんな日には レモネードつくろう

レモンを刻んで魔法をかけて

レモネードつくろう 誰かと一緒に
レモネードつくろう 一人でも美味しい
レモネードつくろう 笑顔に戻れるかも

Fumiko 召し上がれ。
鐵三 いただきます。

鐵三、レモネードを飲む。
Fumikoじっとその様子を見ている。

鐵三 . . .
Fumiko . . .
鐵三 酸っぱくて甘い。とても美味しいよ。
Fumiko よかった。ずっと黙ってるから。
鐵三 ごめん。
Fumiko そんなに深刻にならなくても。
鐵三 そうじゃなくて。ステージのこと。
Fumiko 別にいいのよ。気にしないで。

鐵三　でも僕のせいで・・・。
Fumiko　そういうのいいから。舞台に立つのは好きだけど、本気でやってるわけじゃないし。
鐵三　本当に？
Fumiko　・・・。
鐵三　僕にはそうは見えなかった。
Fumiko　やめてよ。
鐵三　・・・。
Fumiko　もういいから。この話はやめにしよう。それよりもお祭り当日はお手伝いよろしくね。
鐵三　うん。

Fumiko調理器具を片付け始める。

鐵三　ふみちゃん。
Fumiko　ん？
鐵三　あの、頑張って、売るよ。
Fumiko　うん、ありがとう。

鐵三、レモネードを飲み干し。片付けを手伝う。
祭囃子が聞こえて来る。
照明変化。高見移動。

Scene8 広場

正一、法被姿で登場。

正一　さあ、祭りだ。祭りだ。

盆踊り。
観客を巻き込み、櫓の周囲を回りながら踊る。

鐵三　フミちゃん。
Fumiko　何？
鐵三　話があるんだ。
Fumiko　うん。
鐵三　・・・少し歩かない？
Fumiko　いいよ。

Scene9 森の中

Fumiko、腰掛ける。
鐵三、距離を慎重に測りながら隣に腰掛ける。
二人の間には少し隙間がある。

Fumiko　ありがとうね。
鐵三　え？
Fumiko　手伝ってくれて。
鐵三　当たり前だよ。困ってることがあったらなんでも言って。
Fumiko　ありがとう。
鐵三　・・・。
Fumiko　・・・。
鐵三　・・・。
Fumiko　・・・。
鐵三　・・・。
Fumiko　聞こえるね。
鐵三　え？
Fumiko　お祭りの音。
鐵三　うん。音は空気の振動だから。
Fumiko　え？
鐵三　空気を震わせて音は伝わってくるんだ。
Fumiko　そうなんだ。
鐵三　ごめん、興味ないよね、こんな話。
Fumiko　鐵三さんは物知りなんだね。

鐵三 テツでいいよ。
Fumiko 物知りなんだね、テツは。
鐵三 役に立たない知識ばかりだよ。実家でも本ばかり読んでいて父に叱られて。
Fumiko そうなの？
鐵三 本当は学業を続けたかったけど、商売人に学問は必要ないって言われて。言い出したら聞かない人だから。
Fumiko それでこっちに来たんだ。
鐵三 必死で説得したよ。儲けの種は米国にある。これからは米国の時代だって。
Fumiko すごいね。
鐵三 そんなことないよ。逃げ出したみたいなものだよ。
Fumiko ないな、そういうの。私には。
鐵三 え？
Fumiko 物心ついた時からここにいるから。夢を抱いて、海を渡るぞ、みたいな感じ。ちょっと羨ましい。
鐵三 やっぱりそうだよ。
Fumiko え？

鐵三、立ち上がり。

鐵三 君は舞台に立つべき人だよ。舞台に上がってみている人たちを幸せにするんだ。本当は気づいてるだろ？怖くても一歩踏み出すんだ。

沈黙。

Fumiko 話したいことってそれ？
鐵三 うん。
Fumiko そろそろ行こうか。

Fumiko立ち上がる。

鐵三 フミちゃん。
Fumiko ~~何。~~
鐵三 僕は。
Fumiko ~~うん。~~
鐵三 . . .
Fumiko . . .
鐵三 きっといつか、君の輝きに追いついてみせる。
Fumiko 踊るの？
鐵三 踊らない。立派な商売人になる。いつか君のために劇場を作るよ。
Fumiko うん。
鐵三 白い大きな建物で、ロビーに厚い赤絨毯を敷く、奥にはバーカウンター。入り口は回転ドア。
Fumiko それで？
鐵三 席をゆったり並べて、どの席からも舞台に手が届きそうなくらい近く感じるんだ。すごく近くに感じるんだ。まるで僕のために歌ってくれてる。そんな感じの劇場。
Fumiko 叶うよ。きっと。叶う。
鐵三 それから . . .
Fumiko そろそろ行くね。夢の話、ありがとう。面白かった。
鐵三 ああ、うん。じゃあ。
Fumiko 頑張ってみるよ。私も。頑張ってみるよ。
鐵三 うん。

Fumiko去り際に振り返って手を振り、退場。

鐵三、手を振り、Fumikoを見送る。

鐵三、ため息。

正一、登場。背後から鐵三に声をかける。

正一 おい。テツ。
鐵三 正一さん。いつからいたんですか？
正一 君は舞台に立つべき人だよのくだりからいたよ。
鐵三 真似しないでください。
正一 長いんだよ話が。退屈だし。蚊が寄ってくるんだよ。ほら食われちゃったよ。

正一、腕を見せる。

鐵三、ペチペチ叩く。

正一 何するんだよ。
鐵三 何でちょっと嬉しそうなんですか。
正一 え、うん。まあ、兄としてちょっと思うところはあったのよ。
鐵三 あのですね。
正一 あいつには背中を押してくれる奴が必要なんだ。
鐵三 それは正一さんが。
正一 たくさんいた方がいいんだ。~~だから、ありがとな。~~
鐵三 思ったままを正直に言っただけです。~~ただそれだけです。~~
正一 あいつはこんな世界の片隅で終わる女じゃねえ。~~俺にはわかる。~~もっとずっと大きな・・・大きな舞台に立って、たくさんの人を笑顔にする。そうだろ。
鐵三 はい、きっとそうなります。
正一 誰にも言うなよ。俺も誰にも話さねえからよ。
鐵三 何をです。
正一 いや、お前が振られたこと。
鐵三 あのですね。
正一 ほら、いくぞ。
鐵三 はい。
正一 先歩け。
正一 待て、一人にするな。
鐵三 はいはい。
正一 夜の森は危険がいっぱいなんだよ。
鐵三 何も出ませんよ。
正一 拳銃向けられたら？
鐵三 手をあげます。
正一 そうだ、それでいい。
鐵三 役に立ちますか？
正一 もちろんだよ。いつか都会に出た時に、きっと役に立つ。いいか、俺だってこの街で一生を終えるつもりはねえんだ。俺たちは自由なんだ。どこだって行けるし、何にでもなれる。そうだろう？
鐵三 ええ、もちろんです。もちろんですとも。
正一 大きな世界ででっかく勝負するんだ。俺はやるぞー。やってやるぞー。

Scene10 劇場

舞台上でリハーサルが行われている。

M4 「メトロポリタン」

ここは世界の中心
夢を叶える街
誰もが夢を見る

ここは世界の中心
夢が破れる街
残るは一握り

演出家 ストップ！！君、そう君だ。下がって。ラインがあるだろ。そこから前に出てこないで。
Fumiko はい。
Rachel 大丈夫？
Fumiko はい、すみません。
演出家 続きから。5、6、7、8。

ここへ全てが集まる
空に つながる 道
そびえる 摩天楼

儂い星たちが
今宵 放つ 輝き
明日は 消え去る 定め

ここは世界の中心
夢を与える街
誰もが夢を見る

まばゆい星たちが
今宵 放つ 輝き
明日は 消え去る 定め

Rachelの周囲には人だけりができる。
Fumiko、一人、列から離れる。

Rachel 大丈夫？
Fumiko ええ。はい。
Rachel やな感じよね。気にすることないから。新人にはキツくあたるのよ。
Fumiko はい。
Rachel 私も経験あるから。
Fumiko そうなんですか？
Rachel 洗礼を浴びるのよ。
Fumiko 洗礼？
Rachel 今は耐えて、生き延びる。そうして偉大な芸術家になる。
Fumiko はい。
Rachel ようこそ舞台へ。頑張ってね。

Rachel、退場。

Scene11 カフェ

ステージからカフェへ転換。俳優たちは給仕に。
Fumikoは手紙を書く。

Fumiko レモネードを。
給仕 かしこまりました。
Fumiko 鐵三さんへ。お元気ですか。私は元気です。練習やオーディションに追われ、忙しく過ごしています。毎日がすごく充実していてとても順調です。生まれた街から出てこんな暮らしをするなんて、夢みたいです。これもテツさんが背中を押してくれたおかげです。だから忙しくても頑張れます。約束します。これから先、どんなことがあっても負けません、諦めません。応援してくれる人がいるってわかってるから。今はまだ名もなきダンサーだけど、いつか必ず、ブロードウェイの真ん中でスポットライトを浴びてみせます。Fumiko。

Fumiko、席を立ち。給仕たち、カフェのセットを片付ける。

Scene12 スタジオ

Fumiko、ダンサーたちが鏡と向き合う。

M5 「In the Mirror」

Mirror...Mirror...Mirror...Mirror...

You...

in the mirror

You...

in the mirror

鏡は嘘をつかない あなたは嘘をつく

Mirror...Mirror...Mirror...Mirror...

あるのは姿形

形あるものが全て

私の見つめる 先には 私を見つめる私
鏡の世界が 映し出す 真実

背を向け 夢に溺れて 時は流れていく
跡形もなく 何も残らず
突き刺さる 真実
美しくも 儂く 磨かれた 鋭利な真実

Mirror...Mirror...Mirror...Mirror...

You...

in the mirror

You...

in the mirror

あるのは姿形
形あるものが全て

いずれは 朽ち果て失う定め 比類なき美貌
眼差しが 試している 私の真実

歪め 囚われ 動けない
鏡は見ている

やるかやめるか選ぶだけ
鏡は見ている

Mirror...Mirror...Mirror...Mirror...

鏡は嘘をつかない あなたは嘘をつく

Mirror...Mirror...Mirror...Mirror...

You...

in the mirror

You...

in the mirror

Mirror...Mirror...Mirror...Mirror...

Scene13 自宅兼クリーニング店。正一の部屋

正一 他には？俺のことは？書いてあるだろ。
鐵三 追伸。兄から目を離さないでください、きっと何かしでかします。だから先に謝っておきます。
ごめんなさい。兄のことどうぞ宜しくお願いいたします。

鐵三、手紙を兄に渡そうとする。

正一 いや、いい。

鐵三、手紙を懐にしまう。

正一 まあ、元気そうで何よりだな。

鐵三 返事はどうします。

正一 書いてやれ。

鐵三 僕が？

正一 他に誰が書くんだよ。

鐵三 いや、しかし。こういうことには疎くて。なんと書いていいものか。

正一 ありのままを書けばいいだろ。

鐵三 今日遅くまで仕事をして、くたびれました。夕飯は煮付けでした。美味しくて・・・。

正一 馬鹿野郎、日記じゃねえんだから。もうちょっと興味をそそるようなものが書けないのか。

鐵三 例えば？

正一 ちょっとした事件とか、日常の変わったことを探してだな。

鐵三 お兄さんは何やら怪しい集まりに足繁く通っています。

正一 馬鹿野郎。余計なこと書かなくていいんだよ。

鐵三 じゃあ何してるか教えて下さいよ。夢を語り合った秘密を共有した仲じゃないですか。

正一 今度な、新しい店を出そうと思ってな。
鐵三 本当ですか？すごいじゃないですか。
正一 この世界を支配しているのは資本家である。わかるかね、諸君。労働者でいる限り、君たちは搾取され続けるのである。
鐵三 なんですか、それ？
正一 この世界の真実とでも言っておこう。
鐵三 はあ。
正一 まあ、俺も大海原に漕ぎだす時が来たってことかな。夢を抱いているのはFumikoやテツだけじゃないってことよ。
鐵三 他の人には？お父さんにはもう話しました？
正一 いや、折を見てきちんと話す。だからそれまでは。内緒な。
鐵三 わかりました。
正一 じゃあな、頑張れよ。俺も頑張る。
鐵三 手伝ってくれないんですか。
正一 資本家は忙しい。忙しくなり続けるのだよ。
鐵三 いってらっしゃい。気をつけて。
正一 おう、俺のことは書くなよ。町中を俺の店で埋め尽くして驚かせる計画なんだ。
鐵三 きつとうまくいきますよ。

正一、退場。
鐵三、手紙を書く。

鐵三 親愛なるFumiko様……。少し硬いかな。親愛なる。親、愛。あい。いや、違う、いや、違わない、違う。いや……。

照明変化。高見移動。

Scene14 スタジオ

劇作家が椅子に座っている。
俳優と女優が紙束を手に横並びに立って演技をしている。
その脇には女優の頂を目指す候補者たちがずらりと並んでいる。
列は長く伸び続けているように見える。その中にFumikoも加わる。
途中で一人の男、Davidが部屋に入ってくる。

俳優 おい、オールドNo7を頼む。
女優1 はい、ご主人様。かしこまりました。
劇作家 ありがとう。次の人。

女優1、退場。女優2スタンバイ。

俳優 おい、オールドNo7を頼む。
女優2 はい、ご主人様。かしこまりました。
劇作家 よかったよ。次の人。

女優2、退場。女優3スタンバイ。

俳優 おい、オールドNo7を頼む。
女優3 はい、ご主人様。かしこまりました。
劇作家 いい感じだ。次の人。

女優3、退場。女優4スタンバイ。

俳優 なあ、ちょっと休まないか。
劇作家 いい考えだ。そうしたいが後……。50人程候補者がいるんだ。
俳優 そんなに？すごい競争率だな。ちゃんと文字が読める奴らなのか？何か別のオーディションと勘違いしてないか？
劇作家 すごい競争率だよ。ブロードウェイには引力がある。だからマシンのようにこなしてくれ。
俳優 なあ、明日にしないか？それか少し休ませてくれ。
劇作家 いいアイデアだ。そうだな、5分休憩にしよう。その後にマシンのように。
俳優 オーケー。
David やあ。

劇作家 ああ、David来てたのか？
David 新作の調子は？
劇作家 見ての通りだよ。マシンのように進めてる。
David ずいぶん苦労してるみたいだな。
劇作家 ああ、いい俳優はどこにいるのか、教えて欲しいよ。君はどこで見つけるんだ。まったく。
David それは企業秘密だね。
俳優 なあ、ちょっといいかな。
劇作家 どうした？
俳優 やっぱ今日は切り上げよう？この暑さだし。
劇作家 あと少しの辛抱だ。残りを試さないと。マシンのように。
俳優 ちょっと用事があるんだ。今日はもういいだろう。必要なら明日続きをしよう。
劇作家 このプロジェクトは絶対に失敗できない。今後のキャリアに関わるんだ。
俳優 頼むよ。妻の両親が来ててさ。わざわざヤンキース戦のチケットを取ったんだ。君も知ってるだろ。うちの厄介な状況。
劇作家 それはわかるけど。
俳優 頼むよ。
劇作家 ベストを尽くしたいんだ。
俳優 それはわかるけど、ちょっと神経質になりすぎだよ。正直誰を選んだって変わらないよ。そうだろう？
劇作家 わかったよ。今日は終わりにしよう。
俳優 助かるよ。また明日。

俳優、退場。

劇作家 みんな申し訳ない、今日は終わりだ。お疲れさん。

壁際の女優たち、各自の荷物をまとめ退場。

Fumiko あの。
劇作家 悪いけどまた明日来てくれ。
Fumiko 私、明日は別の予定があって。今日だけしか。
劇作家 そうか。それは残念だったね。
Fumiko そこをなんとかお願いできないでしょうか。
劇作家 そう言われても、相手役もいないんじゃないなあ。
David 手伝おうか？
劇作家 待てよDavid。
Fumiko ありがとうございます。
劇作家 でしゃばるなよ、ここは君の現場じゃない。
David いいじゃないか。ちょっとした余興だよ。
劇作家 今日は振り回される日だな。よかったね。準備はいい？
Fumiko はい。

劇作家、紙束をDavidに渡す。

劇作家 大金持ちとその召使いのシーンだ。君はウィスキーを持ってくるように彼女に言う。
David 了解。
劇作家 さっさと済ませよう。いいね。
Fumiko はい。
劇作家 じゃあ行くよ。用意、はい。
David おい、オールドNo7を頼む。
Fumiko はい、ご主人様。かしこまりました。
劇作家 ありがとう。おしまいだ。
Fumiko はい。
David よかったよ。
Fumiko ありがとうございます。
劇作家 こちらこそ。
David もう少しだけ聞きたいんだけど。いいかな？
劇作家 もちろんさ。いいとも。どうぞどうぞ。少しだけならね。
David 女優さん？
Fumiko ええ、まあ。
David だと思った。
Fumiko いつもそうやって口説いてるの？

David いや、そうじゃないんだ。そういうことじゃなくて。
劇作家 そうだよな。そうだったよ。
Fumiko あなたは？
David 僕はDavid、今は新作を作ってる途中。
Fumiko へえ。
劇作家 私と同じだ。
David 興味ある？
Fumiko 役があるなら。
David なければ作るさ。
Fumiko どんな役？召使い？
David いや、それも悪くないけどもっと別の何か。
Fumiko 決まったら教えてください。
劇作家 私にも連絡くれ。手数料をもらうことにしよう。
David ダンスのキャリアはどれくらい？
Fumiko 気が遠くなるくらい昔から。
David 歌は？
Fumiko もう歌うなと言われるまでは歌います。
David 芝居はだいたいわかった。他を見たい。この後の予定は？空いてる？
Fumiko ええ。はい。
David じゃあ一緒に来て。

David、Fumikoを連れ出す。

Fumiko ちょっと。
劇作家 David。
David 悪いね、インスピレーションなんだ。
劇作家 どうぞ、お幸せに。

Scene15 クリーニング店

正一 だから親父にとってもいい話だと思う。どうだろう。
父 気に入らねえな。
正一 そう言わずに詳しい内容を聞いてくれないか。
父 いらねえ。
正一 いい条件なんだ。立地も最高だし、2号店を出すならここしかないと思う。一度見てくれないか。
見ればきっと・・・。
父 俺が言ってんのはそういうことじゃねえ。筋の話だ。
正一 筋？
父 そうだ。何で全部決まってから俺のところに持ってきた。
正一 それは・・・。
父 この店は俺の店だ。お前の店じゃない。
正一 そんなこと言わずに。
父 重要なことだ。俺にとってはな。
正一 もういろんな人に話してあるんだ。みんな乗り気だ。今なら・・・。
父 それが気に食わねえんだよ。
正一 ・・・。
父 ・・・。
正一 そうかよ。わかったよ。
父 どこへ行く。
正一 この話をなかったことにしないと。
父 そうか。
正一 あんたは自分のことしか考えてないんだな。
父 なんだと。もういっぺん言ってみろ。
正一 いいや、もうあんたと話すつもりはない。

正一、退場。
母、登場。
沈黙。

母 あんなに厳しく言うことなかったんじゃないですか。
父 そういうわけにはいかねえ。こう言う些細なところに気が廻るようでないとなら商売が立ち行かなくなる。いつかはあいつも独り立ちしなきゃいけないからな。

母 それならそうと言ってやればいいじゃないですか。
父 優しく言っただってダメなんだ。こればかりは痛い目にあって、骨身にしみて初めてわかることなんだ。この国じゃ俺たちは外国人だ。それを忘れちゃいけないんだ。
母 あの子なりに頑張ってますよ。
父 あいつは足も悪い。だからいっぱしの商売人になるには人の二倍三倍の努力がいる。
母 そうですね。
父 晩飯はあいつの好物にしてやれ。
母 はい。

Scene16 スタジオ

写真家がFumikoの写真を撮影している。
Davidが傍でその様子を眺めている。

写真家 緊張しないで、リラックス。

Fumiko、笑顔を作ろうとする。

写真家 もっと肩の力を抜いて。

Fumiko、肩を揺さぶる。

写真家 ……さっきより良くなった。

写真家は手を止めDavidの方を見る。

David Fumiko写真なんだ、大きさに考えなくていい。レンズを見つめて。

Fumiko はい。

写真家 David、悪いが次の予定もある。

David なんとかするから。もう少しだけ付き合ってくれ。

写真家 そうは言っても。

David Fumikoこうするんだ。見てて。

DavidはFumikoの隣に立ち、写真家に写真を撮るよう促す。
写真家、撮影する。

David 簡単だろ。おいで。

David、Fumikoを抱き寄せ、写真家に撮影を促す。

Fumiko ちょっと。

David そうだ。その調子。

David、Fumikoから離れる。

David あとは頼んだ。

写真家 了解。

David、退場。写真家、撮影する。

写真家 よし、いい感じだ。これで最後にしよう。

写真家、最後の一枚を撮影する。

写真家 お疲れ様。よく頑張ったな。

Fumiko ありがとうございます。あの。

写真家 なんだい。

Fumiko 一枚いただけませんか？

写真家 構わないけど、劇場のそこらじゅうに飾られるよ。

Fumiko そうじゃなくて。さっきの。二人で撮ったのを。

写真家 了解。今度持ってくるよ。

Fumiko ありがとうございます。

写真家 ああ、また。

写真家、退場。
Rachel登場。

Rachel Fumiko!

Fumiko Rachel?

Rachel ねえ、あなたもなの？

Fumiko 何が？

Rachel Davidに呼ばれたんでしょ？

Fumiko そうだけど？

Rachel みんなそうなのよ、このプロダクションは。彼が選りすぐりの腕ききを集めてる。

Fumiko そう。

Rachel あなたはいつか這い上がってくると思ってたけど。まさかこんなに早いとは思わなかった。楽しみよね。けど、舞台の上では容赦しないから。お互いに頑張りましょう。

Fumiko ええ。そうね。

Rachel どうかした？

Fumiko ううん。なんでもない。

Scene17 劇場前

ポスター貼りの男が公演のポスターを貼っている。
鐵三登場。鐵三はどこかちぐはぐな印象の帽子と背広を着ている。
鐵三は壁のポスターを見ている。

ポスター貼りの男 おい。あんた。

鐵三 あ。すみません。

ポスター貼りの男 何か用かい？

鐵三 あ、はい。

ポスター貼りの男 チケット売り場はあっちだよ。

鐵三 いえ、そうじゃなくて。

ポスター貼りの男 用がないならどいてくれ。

鐵三 いえ、知り合いが。出るの。少し挨拶に。

ポスター貼りの男 知り合い？

ポスター貼りの男、鐵三をじっと見つめる。

ポスター貼りの男 ……あんたFumikoの友達か？

鐵三 はい。そうです。

ポスター貼りの男 おお、やっぱりあの子の。いい子だよ。あの子は。熱心で。誰よりも早く来て誰よりも遅く帰るんだ。それで、約束は？

鐵三 あ、いえ。

ポスター貼りの男 今、リハーサル中だからな。

鐵三 じゃあ、改めます。今日じゃなくても。

ポスター貼りの男 ちょっとそこで待ってな。

鐵三 あの。

ポスター貼りの男 おい、Keenちょっと来てくれ。Keen。いないのか。またサボってやがるな。

ポスター貼りの男、楽屋口から劇場の中に入る。
鐵三はポスターを眺め、そっと触れる。

鐵三 夢を叶えたんだね。君は。

ポスター貼りの男、楽屋口から出てくる。

ポスター貼りの男 おい。

鐵三 はい。

ポスター貼りの男 入りな。中でkeenが案内する。

鐵三 え。

ポスター貼りの男 またな。大将。

鐵三 ええと……。

ポスター貼りの男 芝居が始まったら観に来るんだろ。

鐵三 はい。ありがとうございます。

鐵三、帽子を取り、挨拶し、楽屋口から劇場内へ。
ポスター貼りの男は作業を再開する。

Scene18 劇場の楽屋

舞台の方から音楽が漏れ聞こえてくる。
午後遅い時間、リハーサル中で頻繁に出演者の出入りがある。

男 こちらでお待ち下さい。今、呼んできます。
鐵三 すみません、ありがとう。

男、退場。
鐵三、部屋の隅で所在なさげに佇む。
コーラスダンサーたちが猛ダッシュで常に出入りしている。
鐵三、鏡前に置かれている写真立てが目に入る。
近づき手に取り、しばらく眺め、写真立てを鏡前に戻す。
Fumiko登場。

Fumiko テツ！
鐵三 やあ。
Fumiko どうしてここに？
鐵三 たまたま仕事で。近くまで来たから。忙しい？迷惑だったかな？
Fumiko そんなことない。いつでも大歓迎よ。久しぶりね。
鐵三 もう2年になるかな。君はあまり帰ってこないから。
Fumiko あっという間だから。この街にいと。全部あっという間に過ぎていくから。
鐵三 元気そうで何よりだよ。
Fumiko あなたもね。みんなは？相変わらず元気にしてる？
鐵三 おじさんは君の顔を見たいっていつも言ってる。たまには帰っておいでよ。
Fumiko うん、仕事が落ち着いたら。
鐵三 今夜も舞台？
Fumiko そう稽古中なの。名前のある役をもらえたの。ポスターにも名前が載るのよ。
鐵三 すごいね。
Fumiko でしょ。オーディションを勝ち抜いてやっとここまでこれた。クリスマス前には舞台に立てる。
鐵三 じゃあお祝いしよう。ご飯は？日本人がやってる店を聞いてきたんだ。
Fumiko もちろん、あんまり時間はないけど。
女性ダンサーの声 Fumiko、Fumiko-!
Fumiko はいー！ごめん呼ばれちゃった。食事は今度落ち着いてからでもいい？
鐵三 うん、わかった。大丈夫だよ。
Fumiko ごめんね。
女性ダンサーの声 Fumiko！
Fumiko 今行きます！またね。
鐵三 ああ、また。忙しいところ、ごめんね。

Fumiko駆けだして行く。
鐵三、後ろ姿を見送る。
再び鏡前の写真を手に取り、眺める。
舞台の方から再び音楽が漏れ聞こえてくる。

M6 「クインテット」

鐵三、David、Rachel、正一、Fumiko

鐵三 明日になれば 夢が叶うと
信じて生きてきた

正一 昨日までの つらい悲しみ
笑える日が来ると

鐵三&正一
朝になれば 夢は覚めて 君はもういない

あの日からずっと 今日までずっと
夢見てた景色 たどり着いたのかな

Fumiko&David&Rachel

明日になれば 夢が叶うと
信じて生きてきた

Fumiko 幕を開けよう

David 夢の世界

Fumiko&Rachel

演じるため この舞台

David 全てを揃えて 魔法をかける
舞台に広がる 理想の世界

Fumiko いつの日か 夢見た世界

David&Rachel

夢を追いかけて

正一 遠ざかる

Fumiko 私は行こう

鐵三 追いかけれない

All 夢が叶う時 どんな気持ちなの
夢が叶う時 どんな景色なの

Fumiko 今はまだ わからない その日を夢見てる

All 魔法は解けない 君となら

David&Rachel

夢を追いかけて

Fumiko 幕を開けよう

Scene19 自宅兼クリーニング店

1941. 12. 7. ルーズベルトの議会演説がラジオから流れる。

正一 本当なのか？これ？戦争なのか？

鐵三 みたいですね。

正一 なあ、俺たち、大丈夫だよな。

鐵三 どうでしょう。

正一 全くついてないぜ。

母 どうなるんだろうね。これから。

鐵三 すぐに終わればいいですが。

母 みんなどうするのかね。

鐵三 帰還船が出るみたいですが ~~から。戻る人もいるでしょうね。~~

父 商売も家族もあるんだ。出てけと言われて、はいそうですかって別の場所に行けるもんじゃねえんだ。

母 店の方はどうします？

父 いつも通り開けるさ。それ以外にしようがねえんだ。

母 襲われたりしないかね。

父 とにかく様子を見ながら慎重に。今はじっと耐えるしかねえ。

正一 そんな奴ら、俺が追い返してやる。

母 無茶しないでおくれよ。

父 各々荷物はまとめておけ。いつ何が起こるかかわからねえ。準備するに越したことはねえ。

鐵三 はい。
正一 . . .
鐵三 大丈夫ですか？
正一 ああ。どうってことねえ。このくらいどうってことねえ。

Scene20 劇場

舞台上にはセットが運び込まれていく。劇場スタッフたちが行き来している。

支配人 君の言いたいことはわかる。 . . . けどね。
David 言ったよな、キャスティングも任せるって。
支配人 でもこれは特別だ。
David そんなの関係ない。
支配人 あるさ。責任者として放置できない。
David キャスティングだけは譲れない。
支配人 いいか、君のことは信頼してる。けど今回だけは話が別だよ。戦争なんだ。
David だからって。
支配人 何人が資金を引き揚げるって言ってきた。そうなったら公演中止だ。
David そんなの間違ってるだろ。
支配人 子供みたいなこと言うなよ。これが世の中だよ。今は公演全体のことを考えよう。
David . . .
支配人 事態が収束すればすぐに彼女の復帰を考える。
David 本当だな。
支配人 約束するよ。
David . . .
支配人 彼女には僕から伝える。同席する？
David . . . いや。君から伝えてくれ。
支配人 わかった。ちょっと君。
劇場スタッフ はい。
支配人 Fumikoを呼んできてくれないか。
劇場スタッフ わかりました。
David リハーサルルームだ。暇さえあればいつも練習してる。
劇場スタッフ 了解です。

劇場スタッフ、退場。

David 今回、クビにするのはそういう奴だ。
支配人 胸が痛むよ。
David 誰よりも練習してる。今まで見た誰よりも。
支配人 好きでクビにするわけじゃない。仕事なんだ。
David ああ、そうだな。仕事だ。ただ若い頃を思い出したんだ。
支配人 君はよくサボってた。
David そうだな。神様は公平じゃない。
支配人 放つとかないよ。必ず誰かが見つける。そういうもんさ。きっと乗り越えるよ。彼女を信じよう。
David 行くよ。
支配人 ああ。

David、去ろうとする。
Fumiko、登場。

Fumiko あ、ちょうどよかった。後でちょっと確認したいことがあるんです。
David 後でな。

David、退場。

Fumiko 呼ばれましたか？
支配人 すまないね、練習中に。ちょっとだけいいかな？
Fumiko はい。
支配人 ハワイのことは知ってるね？
Fumiko はい。ラジオで。
支配人 それで、あんなことがあった後だからしばらく休みを取ってもらえないか？

Fumiko え。
支配人 今はこんな状況だし、中には過激な連中もいるから。ほとぼりが冷めるまででいいんだ。
Fumiko それは。
支配人 君や他の出演者の安全を守るために協力してもらえないか？
Fumiko いつまでですか？
支配人 それはなんとも言えないが、状況が許せばすぐにでも復帰してほしいと思ってる。
Fumiko わかりました。
支配人 すまない。助かるよ。
Fumiko はい。失礼します。
支配人 気を落とさないようにね。
Fumiko

支配人、退場。
舞台上には作りかけのセット。
Fumiko、姿勢を正し。一つ一つ型を確かめるように踊り、
踊り終え、お辞儀する。
David拍手しながら登場。FumikoはDavidを一瞥し、目をそらす。

Fumiko
David 見事だ。
Fumiko ありがとう。
David すぐに開演しても大丈夫そうだな。
Fumiko . . . 知ってたの？
David さっき聞いた。すまない。何もできなかった。
Fumiko
David ほんの少しの辛抱だ。
Fumiko . . . やめて。
David 今は耐えろ。
Fumiko やめてよ。
David やめないよ。
Fumiko こんなことってある。全部なくなった。あつという間に。びっくりする。昨日と全く違う。別の世界に来たみたい。何がいけなかったんだろう。何か間違えたのかな。ねえ、何が違うの。私。違わないよ。あなたと変わらないよ。
David わかってる。わかってるよ。

DavidはFumikoに触れようと手を伸ばす。Fumikoはそれを振り払う。

Fumiko いらない。全部なくなった。それだけよ。
David 聞いてくれ。
Fumiko
David ずっと探してたんだ。この仕事を始めてから。ずっと。綺麗なもの。キラキラしたもの。子供の頃、上は三人、みんな女の兄妹だから。人形遊びをして遊ぶんだ。いろんな役を演じたよ。お父さん、お兄ちゃん、王様、王子様、犬 それが一番普通だと思ってたけど。案外そうじゃなかった。知らなかっただけで。でもそうやって育ったから。それに好きだったから。演じることや物語が。それで探し始めたんだ。自分の物差しを持って。ずっと探して。それでやっと見つけたと思った。君だよ。君を見つけたんだ。
Fumiko
David だから、諦めるな。お願いだ。続けるんだ。
Fumiko ここにはもういられない。
David いつか立つんだ。ブロードウェイの真ん中に。偉大なアーティストがここにいるぞって。確かに存在しているぞって。
Fumiko 私はただ流されて舞台上に上がることを選んだだけなのかもしれない。
David 普通に生きてたって構わない。けど、もうどうだっていいんだそんなこと。君には責任がある。美しいものが纏う責任が。
Fumiko 私バカだな。今日まで気が付かなかったよ。みんなとは違うのに。
David おい。何を言ってるんだ。
Fumiko みんな優しいから。勘違いしてた。どうして教えてくれなかったの？お前は舞台上に上がれないって。
David やめろ。そんなこと言うな。
Fumiko だってそうでしょ。そういうことじゃない。知ってたら、目指したりしなかった。
David 頼むから。そんなこと言うなよ。
Fumiko 終わりにする。

David どこか別の場所に行こう。どこだっていい。遠くへ行こう。誰もいない、どこか遠くへ。何もかも終わるまで。
Fumiko 夢から覚めたのよ。
David 待ってるから。

Fumiko、退場。

照明変化。高見移動。

Scene21 日本人街

指揮官 こちらは合衆国陸軍です。大統領令9066号により、みなさんは指定された居住区に移動していただきます。我々の指示に従い安全に移動をしてください・・・（連行の間、繰り返される）。

正一、追われながら登場。兵士たちに取り押さえられ、連行される。
州兵たちが登場。

兵士たちは観客を整列させ、グループに分けて誘導し、フェンスを設置し観客を整然と連行する。
一部始終がカメラで撮影され、壁面に投影される。

Scene22 強制収容所

鐵三 大丈夫ですか？
正一 ああ、どうってことない。
鐵三 よかった。
正一 思いっきりぶん殴ってやったよ。ちっとはすっきりするかと思ったけど。・・・父ちゃんと母ちゃんは？
鐵三 わかりません。どこかの収容所に連行されたとは思いますが。
正一 無事だといいな。
鐵三 はい。
鐵三 店は大丈夫でしょうか。
正一 俺たち。資本家じゃなかった、労働者でもなかった。家畜だったんだ。フェンスで困って。俺たち、人間じゃなかった。
鐵三 そんなこと言っちゃダメだ。そんなことない。そんなことないんだ。大丈夫ですよ。こんなこと間違ってますから。続くわけないんだから。誰が考えたっておかしいし。すぐに元どおりになりますよ。家も、店も、何もかも。
正一 悪い夢だな。
鐵三 そうですよ。すぐに覚める。
正一 Fumikoは無事でいるかな。
鐵三 もちろんですよ。大丈夫に決まっています。
正一 なあ、テツ。
鐵三 はい。
正一 覚えてるか、初めて会った日。
鐵三 覚えてますよ。長い長い船旅で地面が揺れて。正一さんは遅刻してきて、一人で不安でした。
正一 アマチュアナイト行って。お前はFumikoに釘付けだったな。
鐵三 夏祭りでレモネード売りつけられたり。
正一 森で迷子になりかけて。
鐵三 変なとこ盗み聞きしてましたよね。
正一 わざとじゃないから。
鐵三 蚊に食われすぎてしばらく人相変わってましたよ。
正一 俺たち、人間だよな。
鐵三 ・・・。
正一 試してみようか？
鐵三 何を？
正一 人間かどうか。

Scene23 劇場前

ポスター貼りの男が壁のポスターのFumikoの名前をペンで塗りつぶし、消していく。

Fumiko、旅行鞆を手にその様子を眺めている。
Rachel、登場。

Rachel もう平気なの？
Fumiko ええ。
Rachel 大丈夫だった？みんなずっと心配してたのよ。
Fumiko ええ。
Rachel 今日はどうしたの？
Fumiko お別れを言い。
Rachel どういうこと？戻ってくるんじゃないの？
Fumiko ここを離れることに決めたの。
Rachel そう。そうなのね。どこへ行くの？
Fumiko まだわからない。どこかいいところがあればいいけど。家族のこともあるし。
Rachel そうね。
Fumiko うん。
Rachel きっと神様が見てるから。雨の日ばかりは続かないから。
Fumiko だといいいけど。
Rachel 諦めちゃダメよ。
Fumiko うん。
Rachel 戦争なんてすぐ終わる。
Fumiko そうだね。
Rachel 待ってるから。みんな待ってるから。
Fumiko ありがとう。
Rachel うん。
Fumiko じゃあ。そろそろ。
Rachel そうだね。彼には会った？
Fumiko . . .
Rachel 今日も待ってると思うよ。
Fumiko さよなら。
Rachel またね。

Scene24 広場

Davidが広場に座っている。
Fumikoは遠くからそれを見つめる。
Davidはそれに気がつかない。

M7 「I wonder...」

Fumiko どこか 知らない場所へ
行けば 何か変わるかな
時が 忘れさせてくれるかな

David いつも 胸をざわめかす
どこで 何をしても
君が 叶えさせて くれたんだ

Fumiko&David I wonder...

Fumiko もしも 本当の 気持ち
言えば 止めてくれるかな
弱音 包み込んでくれるかな

David どうして 消えてしまうんだ
美しいもの 何もかも

Fumiko&David
嘘でもいいから そばにいてほしい
嘘でもいいから 君にいてほしい
君を見つけたんだ

Fumiko I wonder はなさないで

David I wonder はなしたくない

Fumiko I wonder 引き裂かれてく

David I wonder ゆかないで

Fumiko&David I wonder...

Fumiko、退場。

Scene25 強制収容所

屋外、フェンスまで数メートル。夜。

正一、登場。

鐵三、登場。

鐵三 戻ろう。

正一 いいや。

鐵三 この時間だ。見つかるはずい。

正一 俺には自由がある。日が沈もうと、沈むまいと。関係ない。俺は出て行く。

鐵三 よそう、無茶だ。

正一 ついてくるな。

鐵三 フェンスは越えられない。

正一 越えるさ。

鐵三 外に出たいなら、明日でもいいでしょう。ちゃんと許可をもらって。まだ誰も気がついていない。今のうちに。

正一 そうさ、誰もわかっちゃいない。

鐵三 戻りましょう。お願いだ。

正一 いいや。

鐵三 どうして。

正一 俺、わかんないんだよ。本当は。Fumikoみたいに生まれた時からこっちにいたわけでもないし、テツみたいに自分の意思で海を渡ったわけでもないからさ。

鐵三

正一 こんなになっちまってよ。どこへ行ってもよそ者で。行くところなんてどこにもないんだ。

鐵三 居場所ならあるでしょう。おじさんもおばさんもフミちゃんも待ってる。

正一 親父もお袋もすごいよ。海を渡って、必死に働いて、店を持って。俺たち育ててくれた。Fumikoは偉いよ。自分の道で必死に身を立ようとしている。それに比べて、俺はダメだ。俺にはなんにもないんだよ。

鐵三 そんなことないよ。初めてこっちに来た時、親切にしてくれて。祭りだって成功させたし。祭りの後、森で声かけてくれて、救われた気持ちだった。あなたがいたから。

正一 ありがとう。 . . . お前いいやつだな。

鐵三、正一を連れ戻そうと手を伸ばす。

正一、鐵三を突き飛ばし、フェンスに登る。

鐵三、連れ戻そうとすがりつく。

正一 おーい。見えるか。

鐵三 よせ。

正一、フェンスの上で監視塔に向かって手を振り、声を張り上げ続ける。

サーチライトが二人を照らす。

正一 俺はここだ。誰か。聞こえないのか？俺はここにいるぞ。この世界には誰もいないのか。俺はここにいるぞ。確かにここにいるぞ。俺は

鐵三 やめてくれ。

鐵三、引き摺り下ろそうとする。

二人はもみ合い。

正一 ここにいるぞ。

ライフルM1903の銃声。

照明変化、高見移動。

Scene27 墓地

フェンスは取り払われ。観客たちは参列者となる。

Fumiko 本日はご多用にも関わらずご焼香を賜り誠にありがとうございます。

このような時節に、多くの方にお集まりいただき、兄も喜んでと思います。

本当に突然のことで・・・どうしてなのか、まだ整理できていないところもあるのですが、私にとって、
兄は・・・。

難しい本をうんうん唸りながら読んだり、
そろばんが苦手で、しょっちゅう私に計算させたり。
ちょっと抜けてるところがあって。

でも落ち込んだ時に、お父さんやお母さんに内緒でレモネードを作ってくれたり。
お祭りの準備を手伝ってくれたり。
ステージに立つのもずっと応援してくれて・・・。

不器用だけど、夢に向かって、やってくる一日一日を全力で生きた人でした。

私にとって。
兄は・・・とても、とても優しい人でした。

心から尊敬できる、かけがえのない人でした。

兄の生前に頂いたご厚誼にお礼を申し上げます。~~本日はありがとうございました。~~

参列者たちは正一の棺に献花していく。
棺は見送られ、旅立つ。
父、母、棺に寄り添い退場。
Fumiko、鐵三の二人が残る。

鐵三 おかえり。
Fumiko ただいま。
鐵三 よかった。戻ってきてくれて。
Fumiko うん。
鐵三 久しぶりだね。
Fumiko あっという間だった気がするよ。
鐵三 そうかもね。
Fumiko もうじき夏だね。
鐵三 うん。
Fumiko 今年はどうするのかな。
鐵三 何？
Fumiko 夏祭り。
鐵三 どうだろう。
Fumiko ねえ。どうだろうね。誰かやるのかな。
鐵三 やりたがったろうね。正一さん。こんな時だからこそだって。きつと言うんだらうね。
Fumiko そうだね。きつとお兄ちゃんなら。
鐵三 ごめんね。
Fumiko 何が？
鐵三 ごめん。助けられなかった。僕は
Fumiko テツは悪くないよ。誰も悪くないんだよ。
鐵三 そんなことないんだ。いたんだよ。目の前に。
Fumiko 仕方がなかったんだよ。
鐵三 目の前で。止められたのに。無理やりにでも。僕は。
Fumiko つらいね。
鐵三 ...ごめん。
Fumiko またやろうね。夏祭り。一緒にレモネード作ろう。
鐵三 うん。

